



## 全員参加の活動

リコーグループは「全員参加」を基本に、環境経営のレベルアップに取り組んでいます。「全員参加」とは、研究開発から製品設計、調達、製造、輸送、販売、保守・サービス、回収・リサイクルの各部門の一人ひとりが、自分の業務に環境の視点を取り入れ活動することを意味します。これらの活動は、利益創出を追求する「QCD活動\*」と、ほぼイコールになっています。また、活動のレベルアップを図るために、グループ内ベンチマークも随時開催し、ノウハウを水平展開しています。

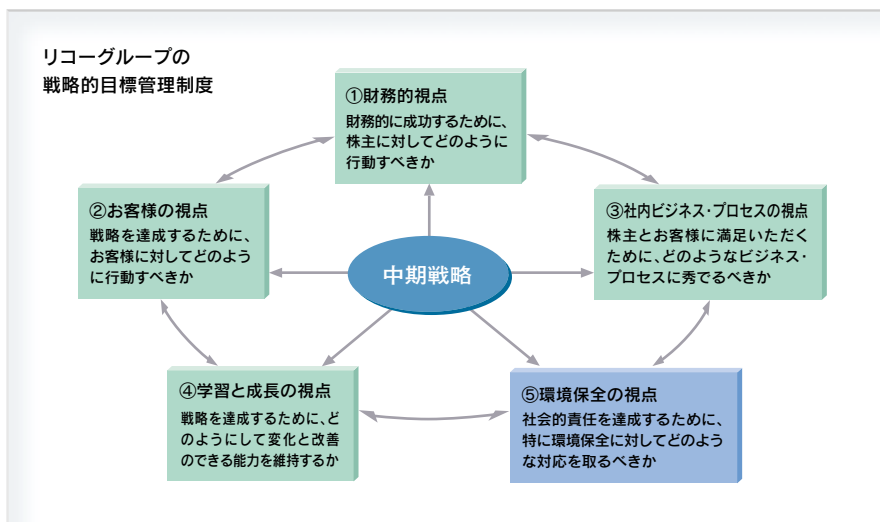
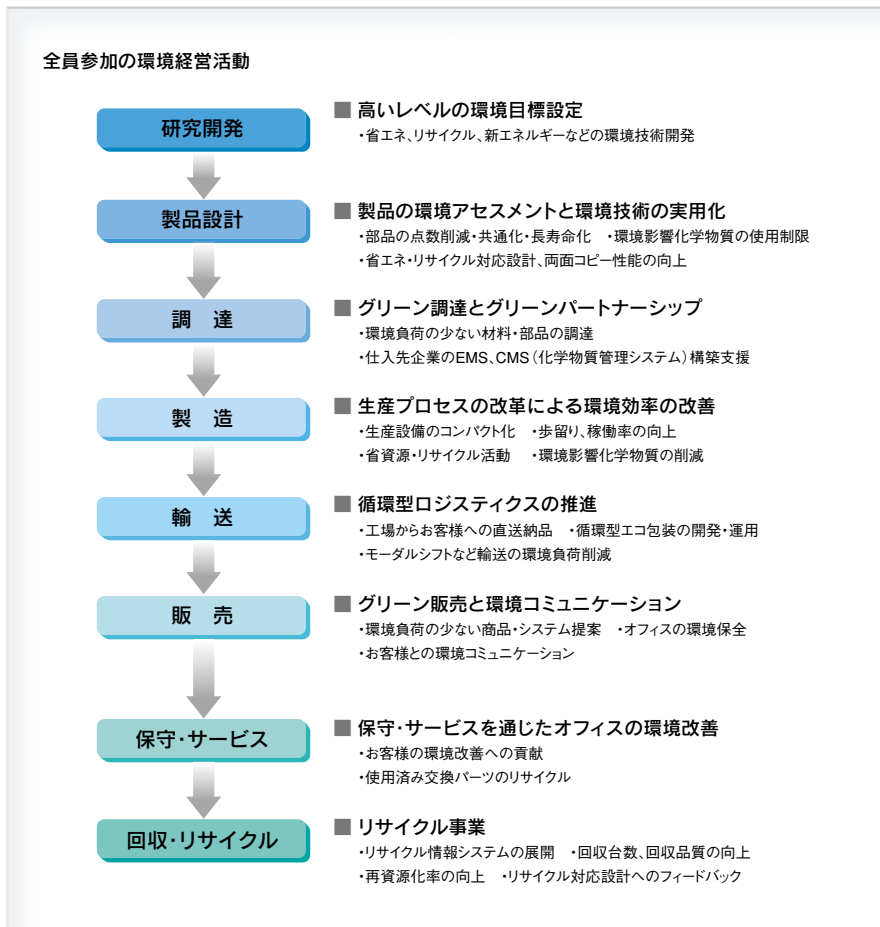
\* 品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の管理改善活動。

## 戦略的目標管理制度

リコーグループでは、環境活動の評価基準を明確にし、部門の業績評価に結びつける仕組みとして、1999年から「戦略的目標管理制度」を導入しています。これは、1990年代にアメリカで開発された「バランスト・スコアカード」の4つの視点に「環境保全」の視点を加えた戦略的な目標管理の手法です。グローバルな環境経営を実現するために、リコーグループ全体に「戦略的目標管理制度」の展開を進めています。

## 販売会社の環境経営推進

日本、欧州、アジア・パシフィック地域の販売会社では環境経営度を自己評価するための独自プログラムをそれぞれ開発し、環境経営のPDCAサイクルを回しています。欧州では2002年度より「サステナビリティ自己評価プログラム (SSAP\*)」を実施しています。このプログラムの評価カテゴリーには、「回収・リサイクル」「省エネ・省資源」といった環境側面だけでなく、「社会的責任」も含まれています。アジア・パシフィック極でも2002年度より「環境経営評価」を実施しています。日本の販売グループでも、2003年度より「環境経営進捗度評価システム」による評価を開始しました。



環境・経済・プロセスの3つの視点で活動を評価し、さらに評価結果に基づいて「環境経営進捗度表彰」を行うことで、販売会社全体の環境経営のレベルアップにつなげています。

\* Sustainability Self Assessment Programの略  
詳細は<http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/pdf2004/21-22.pdf>